



朝晩、寒い日が多くなってきましたが、皆様お元気でお過ごしでしょうか。体調の変化にお気をつけてお過ごしください。今回は透析センターの湯口看護師に『災害支援ナース』について聞きました。



## 災害支援ナースの役割

### ◎災害支援ナースの活動とはどのようなことをされていますか

日本看護協会では「災害支援ナースとは、看護職能団体の一員として、被災した看護職の心身の負担を軽減し支えるよう努めるとともに、被災者が健康レベルを維持できるように、被災地で適切な医療・看護を提供する役割を担う看護職のことです。」と定義しています。本来、発災後に被災地に赴き支援することが災害支援ナースの活動内容です。全国に災害支援ナースとして 9,413 名（2018/3 末時点）の看護師が登録しています。私も数年前に、兵庫県看護協会の災害支援ナースとして登録していますが、今までに被災地に派遣されたことはありません。兵庫県看護協会西播支部の健康危機対策委員会の委員として、月 1 回の会議に出席し、看護の日のイベントや防災の日に行われる防災訓練に参加したり、災害支援ナースの研修会の運営をお手伝いしたりしています。また役割として、自施設や地域での防災・減災に対する啓蒙活動もありますので、当院の看護部防災対策委員会で活動をしています。



### ◎災害支援ナースになろうと思ったきっかけ

看護学校の母体が救護に特化していたこともあり、学生時代からカリキュラムに救護救援についての授業があり、大規模な防災訓練にも参加させてもらいました。その頃から興味を持っていたのだと思います。災害というと最も記憶に残っているのは阪神淡路大震災ですが、それ以降にも様々な震災や風水害がありました。その時々で「自分は看護師なのに何の役にも立てていない」と感じていました。数年前から看護協会では「災害時の看護」というような内容の研修会が頻繁に行われるようになり、参加させてもらう中で災害支援ナースというものがあることを知り、少しでも何かの役に立てたらと思い、登録をしました。



## ◎ 普段から災害に備えておくの良い事

まずは、自分には降りかからないと思うのではなく、どんな災害でもいつ自分に起こるかわからないという意識を持つことだと思います。そして、被災した時の状況を想像してみてください。そうすることで、備えておかなければならない物品は何かとか、どう動かなければならないかを考えることができます。特に、地震が起きた時には、この環境ではどのような状況になるのか？危険はないか？と想像し環境も整えてもらいたいです。また、家庭での備えはもちろんですが、仕事中に被災した時のために職場の自分のロッカーにも、ある程度の水や食料を備蓄しておくことも必要だと思います。



## ◎ 災害時に気を付けること

第一に、自分の身を守ることです。そして、私自身も可能かどうかわかりませんが、「パニックにならないこと」でしょうか。そのためには、繰り返し訓練をすることが大切と言われています。

## ◎ 災害時の当院の対応はどのようになっていますか

当院では「病院防災マニュアル」「消防計画」がサイボウズに保存されていて誰でも見ることができます。皆さん、確認してみてください。職員であれば一度は目を通しておくべきかと思います。マニュアルには大規模災害時に非常事態宣言がなされたときには「院外にいる職員は原則として、全員登院するものとする。」と記されていますので、覚えておいてください。

## ◎ 災害支援ナースに求められる事

被災地に派遣された場合、アセスメント能力・コミュニケーション能力・マネジメント能力・創意工夫できる創造力など、その場で求められる事は多々あると思います。また、活動のところで述べたように、役割として自施設や地域での防災・減災について啓蒙するということがありますので、まずは看護部から「防災あたま」を持った人を増やす活動をしていきたいと思っています。そのためには、自分自身も最新の知識を得られるよう学習していきたいと思っています。

今後も、IHI播磨病院の各部門・先生・スタッフの紹介をします。

次回のT・TAK新聞もお楽しみに！！

バックナンバーは 病院ホームページ

<http://www.harima-hp.jp> からご覧いただけます。